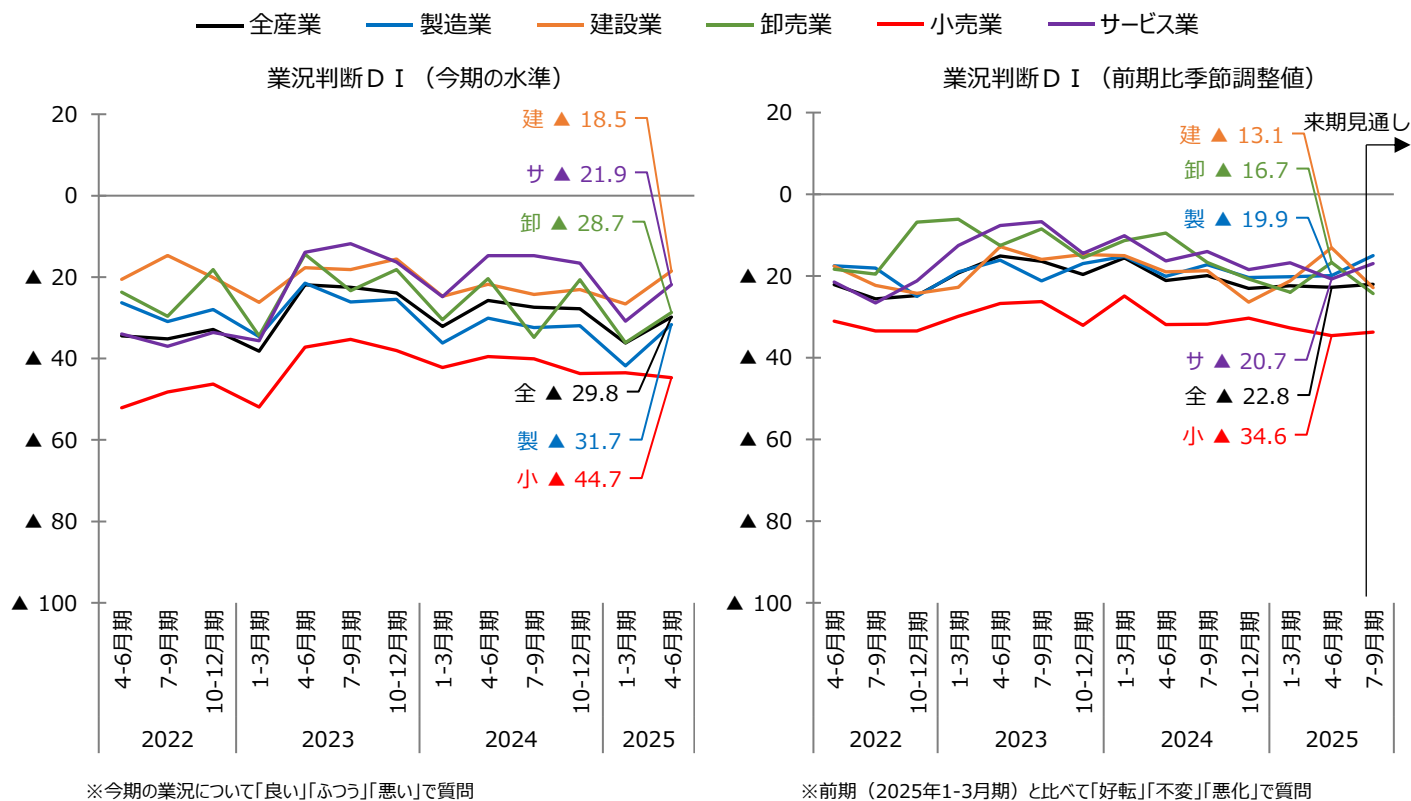


第180回 中小企業景況調査（2025年4-6月期） 東北



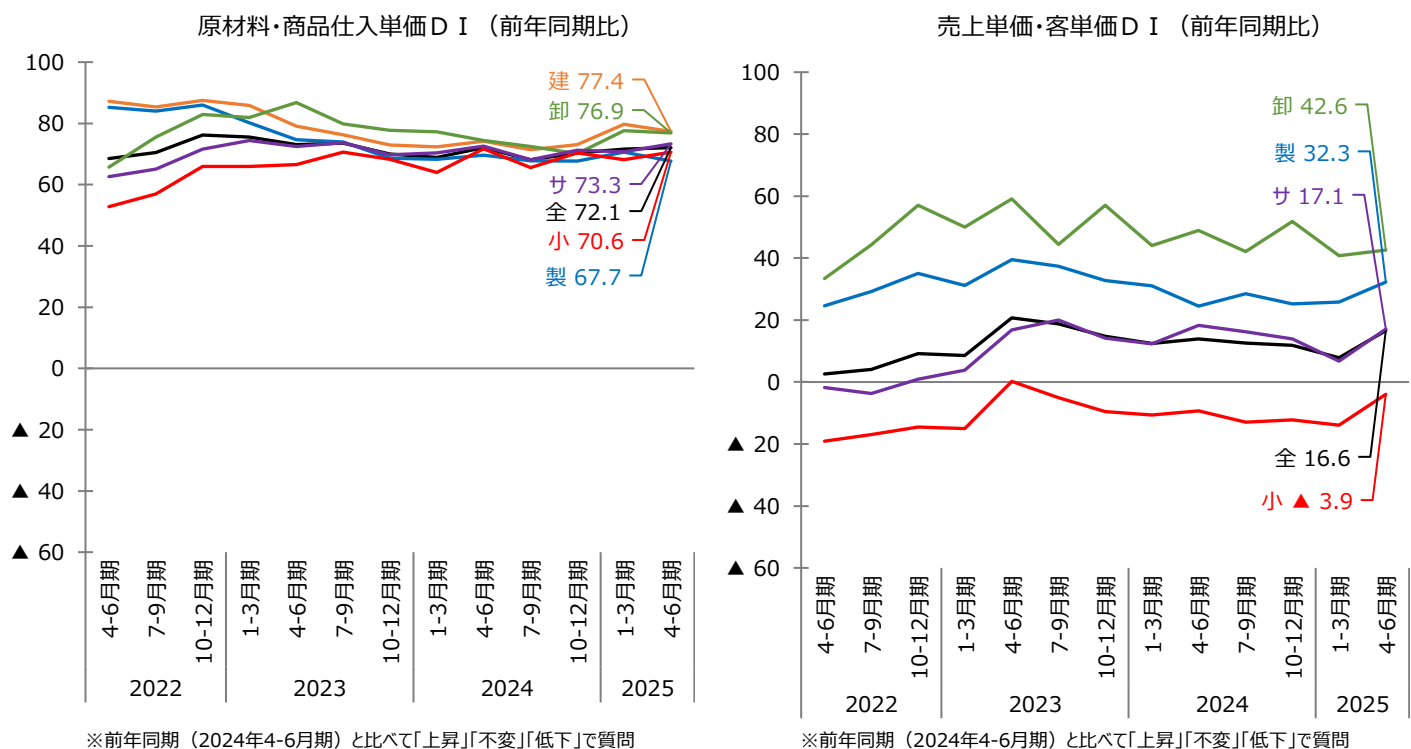
1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年1-3月期）より6.4ポイント増の▲29.8と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、サービス業、建設業、卸売業で上昇し、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.5ポイント増の72.1とやや上昇し、3期連続して上昇となった。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、製造業、建設業、卸売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より8.8ポイント増の16.6と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業、製造業、卸売業のすべての産業で上昇した。



<調査概要> 調査時点は2025年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,841 有効回答企業数：17,899 有効回答率：95.0% うち、東北：1,840企業

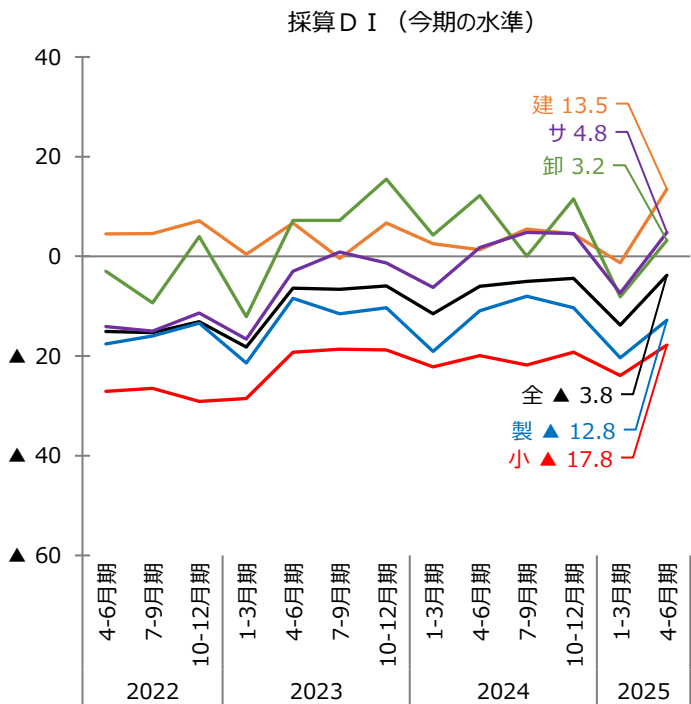
※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

第180回 中小企業景況調査（2025年4-6月期） 東北



3. 採算

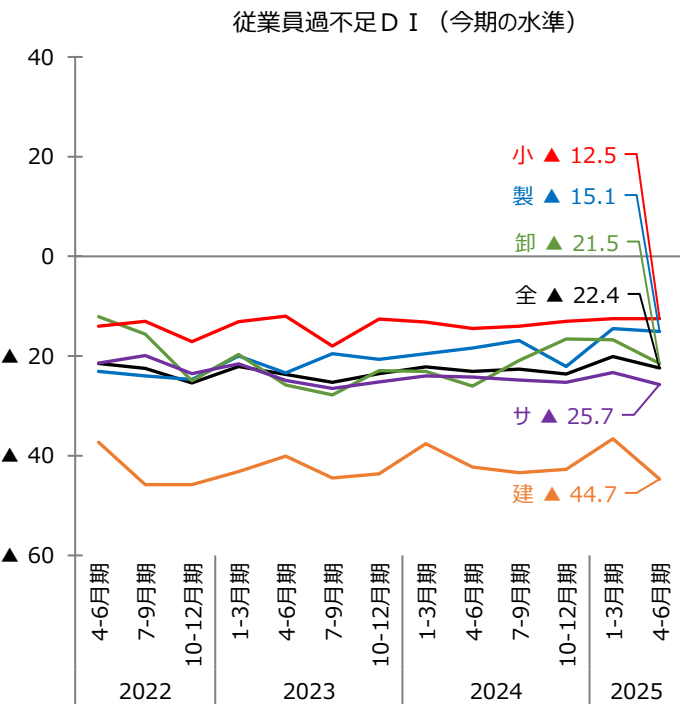
採算DIは、全産業で前期より10.0ポイント増の▲3.8と2期ぶりに大幅に上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.3ポイント減の▲22.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で横ばい、建設業、卸売業、サービス業、製造業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 東北の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	米国関税や大手自動車メーカーの経営方針の影響はすでに出ていて、業況は悪化している。銅材の価格高止まりや様々な経費の上昇もあり、今期はいろいろと改善を進めていく。	製造業	携帯電話機・PHS電話機製造機
	様々な物価の高騰により、消費者全体の消費意欲が低下している傾向にある。それにより、住宅を建てる人が減少しているため、建設業者である当社は影響を受けている。また、大手建設メーカーの参入についても影響あり。	建設業	木造建築工事業
	去年は豚肉の市場相場の高騰が続き厳しい業績となったが、今年度も市場の見通しは不透明であり、業績に不安を感じている。	卸売業	食肉卸売業
	主力商品の青果、米の調達が難しくなっている。商品が無い（採れない）、仕入に掛かるコストの増大により価格の競争力が落ちて顧客離れにつながっていると感じる。	小売業	各種食料品小売業
	ビジネスでの宿泊予約が年々減少しており、ホテルチェーン等への流出（シングル利用による）等があるため、材料費は上がっているが価格転嫁ができず売上が伸びない。設備メンテナンスや老朽化の出費もあり厳しい。	サービス業	簡易宿所
見通し	人口減少とデジタル化によりマーケットの縮小に拍車がかかっている。ボリュームを求めても限界があるので、各業容に相応した人員設備等のスリム化を図り、借入依存度を減らし生き残りをかけていかなくてはならない。	製造業	オフセット印刷以外の印刷業（紙に対するもの）
	特に下請け工事において、見積作成当初と工事開始までに期間がある場合、材料・物価高騰に伴い当初の見積額では難しい。下請け工事での土曜休工や労使協定を遵守し期間内に完成を目指す為に人手不足を感じ易い。	建設業	一般土木建築工事業
	国際的な紛争によるエネルギー価格及び原材料費高騰について物価の上昇傾向は常態化しており、売上確保の価格競争は激化。顧客も買控えにより薄利多売が継続する見通しである。	卸売業	他に分類されないその他の卸売業
	備蓄米が出回ってきたものの、米価の高騰が収まらない。食料品の値上げにより真っ先に削られるのが花を含む嗜好品。仕入単価の上昇等で苦しむ中、経営状況は悪化するばかり。	小売業	花・植木小売業
	あらゆる物価の上昇が続いているが、労務費や原材料費など経営コストの増大に頭を抱えている。コスト上昇分をサービス・製品の販売価格にどのように反映させて利益を確保するかを模索していかなければならない。	サービス業	看板書き業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。